

これからの 外注先マネジメント



設計段階で外注品の QCDを確保する

図面が出てからのトラブル対策は時間と費用がかかるので、後工程で起きたQ(品質)、C(コスト)、D(納期)の問題は開発・設計にフィードバックして再発を防止する(図1)。

1. 開発・設計の不具合は後工程に現れる

品質管理では「前工程の問題(不具合)が後工程に現れる」といわれている。問題が発生した場所で処置・対策するよりも、前工程にフィードバックして再発を防止する取組みが大切である。

図面が出図されてから、後工程の外注先や製造で問題が発生する場合があるので、開発・設計に

図1 QCDの問題のフィードバックの流れ

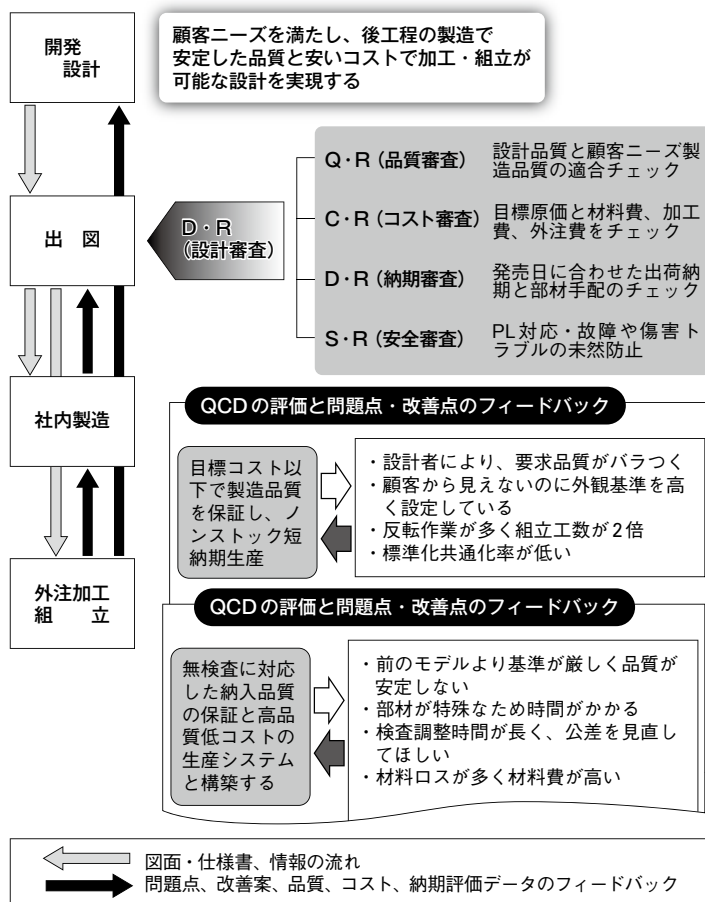
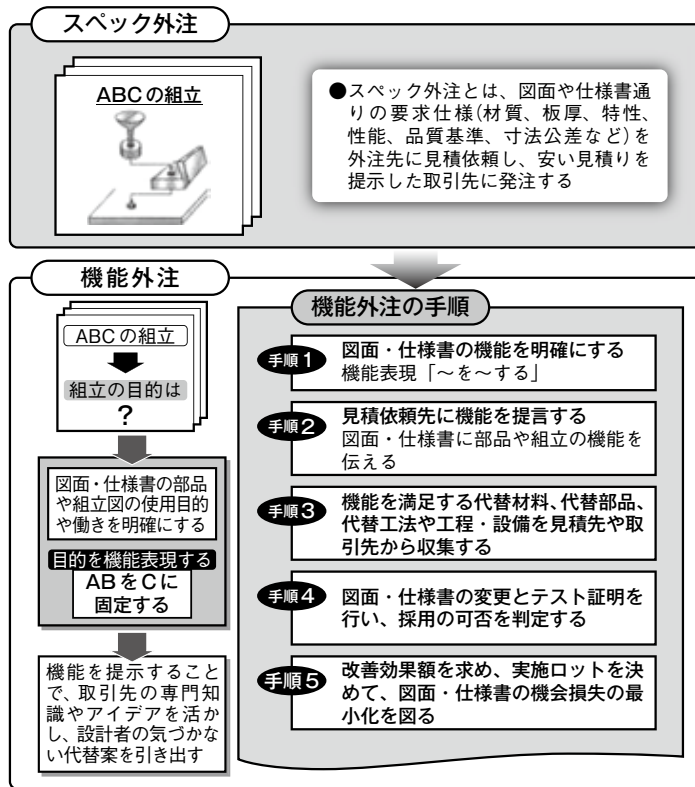




図2 スペック外注から機能外注へ



起因する問題は開発・設計担当者にフィードバックして設計変更を依頼し再発を防止する。

2. 設計審査でQCDをチェックする

設計審査(DR)では、設計品質(QR：品質審査)が顧客ニーズを満たしているか、後工程の製造品質が安定するかをチェックする。

また、価格(CR：原価審査)が予算に入るか否かを出図段階で審査すると、処置・対策が取りやすくなる。

さらに、調達納期(DR：納期審査)で問題ないかを確認して、時間がかかる部材は入手性の良い部材に変更して手配納期を確保する。

3. 設計段階でQCDを確保する

図面・仕様書を決定する開発・設計者は、営業や製造情報に注意して、顧客や後工程が満足する図面・仕様書かどうかをチェックする。設計審査で問題が発生しても、余裕を持って処置・対応できるので、出図の遅れなどのトラブルがなくなる。

新製品やモデルチェンジの場合には、類似品の品質評価、コスト査定、手配納期に関する情報を

参考に、図面・仕様書に起因する設計トラブルを未然に防ぐ取組みを進める。

● スペック外注から機能外注へ ●

図面・仕様書に準じた「スペック外注」から、機能や使用目的を明確にして、最適な代替案を探す「機能外注」を推進する(図2)。

1. スペック外注とは

新製品の開発やモデルチェンジの期間が短くなり、顧客ニーズに対応した短期間での開発と、モノづくりが求められている。このような状況の中で、資材・購買・外注・調達部門は手配業務を進めるが、新製品に使用する部材の品質、納期の問題が継続して発生している。対策としては、外注先でのつくり込みが困難な作業は図面・仕様書の修正や変更を行い、品質・納期問題の対策と再発を防止する。

2. 発注品の機能を分析する

外注する部品の中で、購入金額や発注量の多い